

ニセナシサビダニ

発生生態

被害の特徴

寄生植物はニホンナシ（特に二十世紀、早生二十世紀、近年は幸水や豊水等も被害あり）、セイヨウナシである。本種は、展葉後あまり日数がたっていないやや赤みがかった幼葉に好んで寄生し、毛じの間で盛んに吸汁加害する。被害部はサビ状に褐変し、葉にわい化、奇形化、裏側に湾曲する（写真1）。被害の甚だしい葉は、葉縁部から枯れ込みを生じて早期に落葉する。

形態

体長はおよそ0.2mmであるため、肉眼で見ることにはできない。脚は前胴体部だけにあり、成虫のみならずどの発育ステージにおいても4本しかない。サビダニはフシダニ科に属し、幼虫期がない。（写真2）

生態

5月中下旬頃から葉上での寄生が見られ、6月中旬～7月上旬がピークとなる。越冬場所は花芽、葉芽あるいは発育枝の基部のしわ、短果枝のしわ、小粗皮の下などであり、成虫態で越冬する。8月にはこれら越冬場所への移動が始まり、翌年4～5月に葉上へ移動する。

防除のポイント

- ・せん定や粗皮削り、休眠期に石灰硫黄合剤を散布するなどして越冬成虫密度を下げる。



写真1 葉での被害



写真2 葉上のニセナシサビダニ

参考文献

- ・ひと目でわかる果樹の病害虫—第二巻—／社団法人 日本植物防疫協会

写真提供

- ・福島県中農林事務所 須賀川農業普及所